

令和 5 年 9 月 28 日

吉川福祉専門学校

校長 久田 晴實

令和 5 年度 第 1 回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「第 1 回教育課程編成委員会報告」を公表します。

1 委員名簿

委員長：久田晴實委員 副委員長：池上千恵美委員

(1) 外部委員

阿部 慎也	グループホーム サンパティオ 施設長
小湊 竜一	特別養護老人ホーム吉川平成園 事務課長
山口 剛介	吉川市健康長寿部長寿支援課 課長
與儀 忍	ケアセンター岩槻名栗園 副施設長

(五十音順)

(2) 学校側委員

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
池上 千恵美	同 教員
山本 晃市	同 事務長
田村 貴章	同 事務長代理

2 教育課程編成委員会の開催状況

日 時：令和 5 年 7 月 14 日（金）10 時 40 分～11 時 40 分

会 場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：上記外部委員 4 名、学校側委員 4 名

3 委員会次第

開会

(1) 委嘱状交付

(2) 委員の紹介

(3) 校長挨拶

(4) 委員長選出

(5) 報告

① 令和5年度教育課程編成方針及び特色について

(5) 協議

① 今後の教育課程編成に向けて

② 授業内容等の改善及び工夫について

(6) その他

① 今後の予定

② 事務連絡等

閉会

4 第1回委員会議事要録

別紙のとおり

以上

令和5年度 吉川福祉専門学校 第1回教育課程編成委員会議事要録

令和5年9月28日

- 1 委嘱状の交付 省略
- 2 委員の紹介 省略
- 3 校長挨拶（学校概要の説明） 省略
- 4 委員長選出 久田校長
- 5 報告事項
 - (1) 令和5年度教育課程編成方針及び特色について
- 6 協議事項
 - (1) 今後の教育課程編成に向けて
 - (2) 授業の内容等の改善及び工夫について

外部委員及び学校側委員からの提言と質問事項等

- | |
|--|
| <p>(学校) 介護実習は外部の施設様にご協力いただき行っている実習である。実習時間は合計450時間以上となっており大変お世話になっている。「人間関係とコミュニケーション」や「チームマネジメント」の授業が新しい教育課程でクローズアップされている。これからの介護職員にはリーダー的な役割も求められていると感じる。</p> <p>(学校) 今年の卒業生から「チームマネジメント」の授業を実施。現場で働いている介護職員の方と上司の方、特養の施設長様、またキャリアコンサルタントの方に講師として来ていただいた。とても分かりやすい内容だったと学生からの評判もよかった。</p> <p>(学校) 認知症サポーター養成講座として、キャラバンメイトの方にもご来校いただいた。介護実習前にキャラバンメイトの方にお話を伺う機会ができたことは、学生にとっても本当によかった。</p> <p>(学校) 介護実習Ⅰ-③は訪問介護の実習になっているが、学生の実習受入可能事業所もまだ少なく、利用者さんへの感染症の危険性を考慮して、新型コロナウイルスが5類となった今年度も学内実習を実施することとした。なお、来年度については訪問介護実習を実施したい。</p> |
|--|

(学校) 認知症サポーター講座については、講師の手配や費用なども行政様が負担してくださり学校としても本当にありがたかった。

(委員) 認知症サポーター講座は、地域包括支援センターが担当させていただきました。担当者は後進育成にやりがいを感じているようである。

(学校) コロナ禍ということで学内での課外活動やボランティア活動がなかなかできていない。5類になったことで吉川市が行っているイベント的なもので学生がコラボできるような取り組みがあれば教えていただきたい。

(委員) 吉川市で高齢者向け脳活ドリルというクロスワードや迷路などを取り入れたクイズ冊子のようなものを作っている。昨年は吉川美南高校の美術部や漫画研究部とコラボして、間違いさがしや塗り絵の下絵をかいでもらってドリルの原稿にさせてもらった。

(学校) 実習中の学生より、実習指導者から「利用者さんと話をしてください」と言われることがあり、積極的な学生は会話できるが、引っ込み思案な学生は少し身構えてしまったり戸惑ってしまうという話を聞いた。そういう時の利用者さんとのコミュニケーションのコツや具体的なアドバイスがあれば教えて欲しい。

(委員) 天気や家族の話などはコミュニケーションを取りやすいと思う。ただ、実習指導者としては、実習生が利用者とどうコミュニケーションを取っていくかなども見ている。現場では実習生のそのような様子も見ながら今後の指導方法の参考にもしている。

(委員) 色々な利用者がいて、話が苦手な利用者の場合はなかなか難しいところはあるが、直接声をかけられなくても利用者のしぐさや表情を観察するところから始めてもいいのではないかな。うまく話ができなくてもリアクションはあったりするので、利用者の表情等を読み取ることも大切である。

(委員) 天気もそうだが利用者の出身地やご家族の話をきっかけに話が膨らむこともある。実習指導者や実習先の職員も、実習生が慣れていない時期にはコミュニケーションがとりやすい利用者を薦めていると思う。指導者が最初から手取り足取り実習生にコミュニケーション方法を教えるのではなく、実際にやってみて困ったら指導者が助けるような実習を心掛けている。

(学校) 少し心配だった学生が実習を終えて学校に登校してくると、180度変わって自信に満ち溢れていることがある。

(学校) 新型コロナウイルス発生当初、介護実習を施設で実施しないという学校があったらしいが、本校では訪問介護実習以外は施設での実習を実施できた。

(学校) 本校の授業見学等をしていただき、例えばプロジェクターは後ろの子は見づらいのではないかとか、こうしたらいんじゃないかというようなご意見があればいただきたい。

(委員) タブレットなどを活用した授業も将来的に考えているとのことだが、そういったものがあればプロジェクターや黒板の見づらさなどは関係なくなるのではないか。当施設も研修会などは動画になってきていて ZOOM は録画していつでも見られるようになっている。学校も授業の内容を動画等で見返せるようになるといいのではないか。

(委員) 自習って大事だと思う。習ったことであったりテキストから情報を読み取る力は必要だと感じる。

(委員) 学生への授業のフォローアップ体制などはどうなっているのか。

(学校) 小テストを実施したり、授業前に前回の授業のおさらいから入るなど、教員も創意工夫しながらやっている。

(学校) 生活支援技術の教科書がアプリで動画が見られるようになっている。

(学校) 2 年生では手話や点字の授業、経管栄養・喀痰吸引といった医療的ケアの授業もあり、座学はもちろん実技的な授業についても予習復習が不可欠である。

(委員) 日本は介護人材が不足している。養成校の存在は資格を取得するための近道でもあり大切な場所だと思う。学生募集は大変かもしれないが、黒字経営を維持できるよう引き続きがんばっていただきたい。

(委員) 現場の職員には、養成校を卒業して介護福祉士になる者と現場経験を積んでから介護福祉士になる者がいる。特に前者の職員は基礎的な知識や技術が身についている者も多く、言葉使いや動作が丁寧だと感じる機会も多い。

(委員) 吉川福祉の卒業生にも働いてもらっているが、養成校を卒業してきている方は基礎が出来ていると感じる。やはり無資格者や初任者研修のみの職員と比べて基礎が違っていると実感している。養成校の存在意義や方向性は間違っていないと思う。介護人材不足を補おうと外国人の特定技能者を増やす動きも活発になってきているが、日本人の介護福祉士を育成する養成校はあり続けてほしい。

(委員) チームマネジメントの授業について、前回の会議でも大切さを説明されており、それが授業運営にきちんと反映されていて素晴らしいと思う。学生が自分の 10 年後 20 年後をイメージする上でも、こういったカリキュラムは必要だと感じる。